

生野内地区

郷地区の紹介

上郷

下郷

公庄地区

旧郷小学校

高橋地区

《沿革》

網野町郷（ごう）地区は網野駅より峰山方向に4km近く走ったところにある集落です。西向きの山を隔てた向こう側の新庄（しんじょ）区、峰山町境の生野内（いくのうち）区、鉄道を挟んだ山裾の公庄（ぐじょう）区、網野側の高橋（たかはし）区、福田川上流の切畑（きりはた）区を総称して昭和25年までは「郷村（ごうそん）」でした。三津区、島津区と同じように網野町中心部から離れていますが、郷地区の場合、産業の構成割合にかなり違いがあり、農業が中心でした。昭和40年代から織物業（兼業）が盛んになってきたと云われます。地区の地勢範囲は広く、住居も海岸集落と違って密集建では見られず、ゆったりとした風景が全体に感じられます。郷地区の北側に至っては府道沿いですので高橋区と隣接し境がわからない程です。

地区役員さんのコメント

他地域についてもそうですが、近年におき水田の荒廃が当地区においても進んでいます。理由は農業（水稻）を後継されない世帯が続出していることです。中核農家に小作に出す方もおられますが困難な場合もあります。水田や畑が荒廃すると様々な弊害が当地区内に出てくるのが予想され、その対策が高齢化する農会ではたいへんであるという声を聞きます。よって早い時期より農地の保安全管理を責任ある団体・個人に委ねることが最善の方策ではないかと思慮されます。様々な障壁が予想されますが、高い次元でこの問題には対峙して行かなければならないと考えています。

《郷村断層》

この郷地区は昭和2年に起きた「丹後大震災」の震源地でありました。その震源地ゆえの断層が地区内に2ヶ所あります。

《武(たけ)神社》

郷区の主な神社は大宇賀神社ですが、この神社の他に天王山(てんのうさん)と呼ばれる「武(たけ)神社」が集落南西方の小山の中腹にあります。”牛の神”とされ農村信仰として親しまれてきました。秋になると講中を中心に後述する祭礼が行われました。ふもとの田園沿いには出店が出て、今では想像のつかない賑いであったと地元高齢者の方が話されていました。

《相撲行事》

毎年秋の祭礼では奉納相撲が行われてきました。いつの時期かに牛の飼育の減少と共にこれらの祭礼行事は姿を消したということですが、平成に入って間もなくこの伝統ある村の行事を、区民活動交流などを目的として復活しました。奉納相撲は、他の地区でもよくありますが、一風違うのは前年出生した赤ちゃんの泣き相撲、小学生(男女)、中学、高校、青年にいたるまで参加されるということです。その昔、羽黒山が訪れたという記録があり丹後地域でも名の知れた相撲競技が行われ、力試しの場として賑いだということです。

この航空写真は郷小学校閉校記念に撮影されたものです

赤枠点線内あたりがざっと郷(上・下)地区です。その他「生野内」「公庄」「高橋」の各区は旧郷村の集落区です。

郷に爽やかな風が吹いています

< 郷地域の紹介 >

オープンガーデンで素敵なひとときをすごせるお宅が郷の地に！
～岡本照代さん、自宅で仲良しの沖野豊子さんとされています～



岡本さんのお庭は、特に春と秋が素敵です。
お部屋から庭を眺めながら楽しいひと時をお過ごしください。

高屋利雄さんは自宅で窯を置いて
作品を創っておられます

高屋さんの作品



陶芸といえば、粘土を形成してから
乾燥させ素焼きと本焼きを行うのが一
般的ですが、専用の陶芸窯（かま）が
必要になりますので、なかなか自宅で
手軽にというわけにはいきません。
陶芸生活30年になります。

後藤美代子さんは藍（あい）染めを
藍の栽培からして作品を創られます



後藤さんの作品

グループ展で賞を貰った作品

藍（あい）は春先に種をまき夏に収穫して乾燥させた
後、水を注いで発酵させ、藍玉にするまで十数の過程、
期間にしておよそ10ヶ月を必要としますが、「藍染は誰
にでも出来る」を合言葉に同好会の仲間たちと作品作り
を頑張っておられます。

一番大変なのは、暑い夏の時期に藍を太陽光で乾燥す
る工程です。毎年ご主人と二人で汗るるるかきながら
シートに広げた藍を手で混ぜながら乾燥させていきま
す。



環境の森の動物たち

郷地区の紹介

平成 28 年初夏……

変わらぬ原景の中の集落

水面に映る郷の里

地域づくり計画が始まる

地区内 コミュニティ活動



★「ひまわり街道プロジェクト」

京丹後警察署の呼びかけで、交通事故撲滅のため地区内の府道際に沢山のひまわりを咲かせ「魔の街道」を「ひまわり街道」に変身させる事業を企画されました。交通事故の犠牲になられた府内の児童が生前に育てていたヒマワリを咲かせ、交通安全と命の大切さを伝える目的であると駐在所の方のお話でした。

★みどりの会 ひまわりの小径・・・

郷地区の農業団体で行なわれています「農村環境保全活動」の中で、「郷みどりの会」（世話役：松本禮一さん）は、新たに区民参加の活動として、京丹後警察と同じくしてヒマワリを地区公会堂のそばで栽培されています。近年は鹿などが食い荒らす被害も多発しており、電気柵でその対策を行ない頑張っておられます。満開の盆過ぎに希望者の方には、持ち帰って頂くと云われています。

★人物紹介



長らく郷郵便局のお手伝い職員として勤められた女性を訪ねました。地元生まれ、地元で育ったためいろいろ地域の、また町域などでご活躍されています。一方で、集落の過疎化を憂うことなく受入れて、向き合って暮らしている姿が堂々とされています。ご家族はご主人と二人暮らし（子供さんは帰郷する予定は皆無といひます）。老いる自分たちを大事にしながら、豊かなコミュニティの中に率先して加わり楽しく暮らしておられます。

こんなことやっていますヨ



★竹炭で生活をクールに

地区内のある男性は以前より、仕事に勤める傍ら余った竹を自宅で炭加工し、一輪挿しの形にデザインされて楽しんでおられます。各家庭の玄関に置けば感じの良いアクセサリーとして眺めることができます。また、ご承知のように竹炭は強力な消臭効果がありますので下駄箱の近くなどに置かれますと重宝されるかと思われます。（地区 松本直己さんの紹介）

★地区の空家で大学生が合宿しています

地区内旧郷小学校近辺の民家の空き家では、市の事業「域学連携」の一環で、旧郷小学校跡に設置された「京丹後夢まちづくり大学」の関係者が合宿（共同生活）されています。

★農業回帰の足音



この郷地区においては地区民の生業が過去より農業が中心でしたので、前頁にあります写真が郷地区を代表する風景ではないかと思ひます。初夏に吹く風は水田の空を通り、人々に涼しい風を送り届けています。

そんな郷地区で若者が農業を始めました。といひても取り立てて話すことでもないのですが、地域の方にはたいへん喜ばれています。空き家問題と同じように区内の耕作放棄地も農業集落の課題になっているからです。

郷区・生野内区の歴史紹介



震災直後の小池断層

浪曲の中の大震災

「奥丹後大震災」は過去に浪曲の語りとなったことは、往年の方にはご存知の方もあろうかと思えます。・・・大地震発生を告げる電報、刻々と入る悲惨な各地域を伝える電報。語り部の声のテンポが早まり、最高潮に達し、各町村の死者、負傷者のありさまをリアルに大きな声で悔しそうに嗚咽をしながら語る・・・その迫力たるは心に強く残るものです。



自主防災組織

このように大地震の震源地となった郷村でありますので自主防災組織も生野内、郷、高橋、新庄地区それぞれ設立され、防災意識の啓蒙に活動されています。

大地の亀裂が村を走る

1927年（昭和2年）3月7日午後6時27分40秒頃に竹野郡郷村字郷（当時）を震源とするマグニチュード7.3と推定される大地震が起きました。左の写真は「小池断層」と呼ばれ、場所は現在の旧郷小学校の前に位置します。本当は直線道路なのですが、このように断層に断ち切られて食い違っています。ここでの食い違い幅は、水平に2.65m、手前側（西側）が0.62m隆起しました。この郷村の地面亀裂は田んぼの中などをほぼ南北に走り、地表に著しく現れている所が、北は樋口断層（高橋区手前）に始まり、小池断層、南は生野内地区の山すそに続いています。（下の写真）

郷村のメモリアル

郷村は昭和25年4月まで現在の生野内、公庄、切畑、高橋、新庄、郷の大字で編成する一村でした。



生野内の集落奥地（南側）に大地の亀裂した断層が写真（震災直後）のように起きました。